



8月28日開催ワークショップ集合写真

2023年度 同志社未来創造プロジェクトメンバー

荒渡 良 同志社大学 経済学部准教授	藤井 元嗣 同志社国際学院初等部・ 国際部 5年担任	池上 作 同志社大学 財務部経理課 法人係長	石川 眞弓 同志社国際学院初等部・ 国際部 チャプレン・初等部宗教科教諭	石塚 真也 同志社香里中学校・ 高等学校 社会科教諭	川江 友二 同志社中学校・高等学校 キリスト科教諭
北川 雅章 同志社幼稚園 園長	森田 良平 同志社女子大学 総務部総務課 社会連携係長	森田 喜基 同志社大学 キリスト教文化センター 准教授	中谷 美紀 同志社国際中学校・ 高等学校 保健体育科教諭	西口 和哉 同志社大学 入学センター入学課 入学広報係長	野田 宣彦 同志社大学 理工学部・ 理工学研究科事務室 ハリス理化学研究所事務室 事務長
谷村 仁 同志社国際中学校・ 高等学校 庶務係長	上田 祐一郎 同志社女子中学校・ 高等学校 情報科・数学科教諭	浮田 倫太郎 同志社女子中学校・ 高等学校 社会科教諭	横井 和彦 同志社小学校 校長	吉田 悦章 同志社大学大学院 ビジネス研究科教授	

【17名 ABC順】

当日の参加者インタビュー

池上 作

同志社大学 財務部経理課 法人係長

講義やWSでの議論を通じて、同志社建学の理念そして目指すべき方向性を改めて深く考える一日となりました。将来を見据えつつ伝えたい相手に響く内容にする、という点が難しく、日常業務とは異なる刺激がありました。

中谷 美紀

同志社国際中学校・高等学校 保健体育科教諭

ワークショップを通して、自分らしく生きる中で“一人ひとりを大切にすること”が重要であると思いました。自分の考えや価値観を相手に押し付け否定することは、自分らしい生き方ではなく、自己中心的な生き方になってしまいます。これからも、周囲を取り巻く環境や人々への感謝の気持ちを大切にしたいと感じました。

石塚 真也

同志社香里中学校・高等学校 社会科教諭

今回の研修で気づいた事は、「同志社とは？」に対しての答えが多様である事です。同じ同志社の人間でも、それぞれに認識が違う事が分かりました。150周年に向け、同志社とは？を改めてじっくり考えなければと感じました。

上田 祐一郎

同志社女子中学校・高等学校 情報科・数学科教諭

立場の違う仲間たちとの刺激的な話し合いを通して、漠然と感じてきた同志社のビジョンについて具体的に考えることができました。ここでの学びを150周年で完結させることなく追求し続けられればと思います。素敵な出会いと経験をありがとうございました。

北川 雅章

同志社幼稚園 園長

普段は一緒になることのない法人内の諸学校から参加しているメンバーと共にフラットな関係でワークショップを行って、様々な気付きがありました。メンバーの発想がVISION BOOKの充実に繋がって行けば良いと思います。

吉田 悦章

同志社大学大学院 ビジネス研究科教授

この日を境に私の本事業への認識は大きく変わりました。それまで同志社とは縁がなく、1年前に転職し興味本位で参画したに過ぎなかったのですが、当日の参加者の熱意や同志社愛を感じ、それは私の当面の使命とも呼ぶべき存在となりました。

2023
Vol.1

Road to the 150th

150th
1875-2025 ANNIVERSARY
The Doshisha



同志社創立150周年を機に これから進むべき未来について考える

「Road to the 150th」の第1号では同志社未来創造プロジェクトメンバーによる8月28日開催のワークショップの様子をご紹介します。当日は同志社内各学校の同志社未来創造プロジェクトメンバーなどが集まり、創立から150年を迎える同志社が未来に向けてどういうビジョンを持って進むべきかを語り合いました。この活動は2021年度よりスタートした同志社未来創造プロジェクトの一環。この日は、あらためて同志社精神を学ぶための講演や、ビジョン策定の方法を知る講義、そして同志社の「ビジョンブック」を作成するためのグループワークを実施。日頃は様々な立場にいる各学校の教職員メンバーによって活発な議論が繰り広げられました。

Road to the 150th とは

「Road to the 150th」は、同志社創立150周年を記念して企画・実施される様々な事業をピックアップして、皆様にお伝えしていく同志社未来創造プロジェクト発行の広報メディアです。2025年11月29日に迎える150周年という節目を、同志社の建学の理念と共に歩んだ軌跡を振り返り、未来に向けた一歩を踏み出す機会とするべく、同志社と関わるすべての人が、同志社の過去、現在、未来についてあらためて考えるきっかけとなることを目指して作成しています。

当日のタイムテーブル

[2023.08.28]

時間	内容
09:15-9:30	アイスブレイク 趣旨説明
09:30-10:25	【講演】 元同志社大学神学部教授 本井康博先生 「同志社精神を考えるために」
10:35-11:15	2021・2022年度 振り返り
11:15-11:45	【講義】 ビジョンの役割
11:45-12:15	【講義】 ブランディングの時流
12:15-13:15	昼食
13:15-13:45	【講義】 クリエイティブの事例
13:45-15:55	【ワークショップ1】 ビジョンブックの コンセプトを考える
16:05-17:45	【ワークショップ2】 ビジョンブックの コンテンツを考える
17:45-18:00	感想共有

同志社精神を考えるために | 本井康博氏 (元同志社大学神学部教授) [講演]



同志社の徽章からみる 教育理念について

当日はワークショップに先立ち、同志社精神を考えるにあたっての知識の共有を目的として本井康博氏（元同志社大学神学部教授）による講演が行われました。本井氏からは、同志社の徽章である3つの正三角形を寄せたマークの成り立ちから、そこに込められた知育・徳育・体育の三位一体の考え方、同志社らしさを形成するキリスト教主義、自由主義、国際主義の教育理念や、人格主義という独自の見解などを交えて説明がされました。また、1882年に文明論と題する講演の中で新島襄が語ったとされる「文明には、知識、財産、自由、良心の4つの要素が必要であり、良心こそが最も重要である」との言葉を引用し、良心教育の重要性を提言され講演を締めくくられました。質疑応答でも、良心教育やキリスト教主義についての質問がされ、同志社精神について多くの学びを得た時間となりました。

ビジョンの役割 〔講義〕 **ブランディングの時流** 〔講義〕 **クリエイティブの事例** 〔講義〕

[illegible]

ビジョンブック作成にあたってのノウハウの
インプットとして、株式会社ミーティングの三
村氏より「ビジョンをつくり、ビジョンと未来
をつくる。」と題した講義が行われました。講
義では、ビジョンブックの役割や、これまで
存在した国内外のビジョンを事例に、それ
らがどのように生まれ、機能してきたかの解
説がありました。



株式会社ミーティング
代表取締役
クリエイティブストラテジスト
三村 恵三

[illegible]

続いて、「ソーシャルグッド×パーソナルグッドの時代へ」と題して株式会社アマスタジオの神崎氏により、ビジョンブックの方向性を定めるために昨今のブランディングの時流を知る講義を実施。ブランディングとは何かを理解し、時代と共に変化する価値観の中で、社会に対して響く同志社の価値とは何かを改めて見つめ直す時間となりました。



株式会社アムスタジオ
代表取締役
クリエイティブディレクター
神崎 晃

ビジョンブックとは

ビジョンブックとは、顧客の皆さまと直接、顔-to顔で交流し、商品・サービスについて「リアルタイム」にフィードバックをいただくためのツールです。ビジョンブックは、お客様の声や要望をリアルタイムで把握することができ、お客様とのコミュニケーションをより円滑にするためのツールとなります。

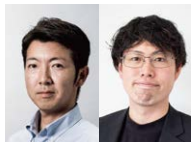
ビジョンブックの活用方法

ビジョンブックは、お客様の声や要望をリアルタイムで把握することができ、お客様とのコミュニケーションをより円滑にするためのツールとなります。

ビジョンブックの活用方法

ビジョンブックは、お客様の声や要望をリアルタイムで把握することができ、お客様とのコミュニケーションをより円滑にするためのツールとなります。

講義の最後に、株式会社MERRY BEETLEの志波氏と、株式会社ミーティングの加藤氏によりビジョンブックの事例紹介と解説がされました。世の中の企業や大学で作成されたビジョンブックをサンプルとして参照しながら、ビジョンブックがどのような考え方に基き、どう構成されているかを学び、具体的なアウトプットを考えるヒントとなりました。



株式会社ミーティング
コピーライター
加藤 了平

株式会社MERRY BEETLE
代表取締役 アートディレクター
志波 大輔

ビジョンブックのコンセプトを考える

[ワークショップ° | 1]



ビジョン・提供価値・ターゲット・ 課題からコンセプトを導く

10月1日のワークショップでは、参加メンバーが4つのグループに分かれ意見を交換。ビジョンブックのコンセプトづくりをゴールとして、コンセプトを導く上で、ビジョン、提供価値、ターゲット、課題について、個人ワーク、グループワークにより議論を深めました。加えて、グループメンバーを入れ替えるワールドカフェ方式を採用しながら、さらに多角的な視点を取り入れた検討を行いました。グループごとの発表では「ビジョンブックのターゲットは、まずは教職員自身ではないか」といった気づきや、「新島襄のマインドを持った人材を社会に対して輩出する」「建学の精神を時代に即して、正確に理解してもらう」といったコンセプト案など、チームごとに特色のあるプレゼンテーションが行われました。

＞ 制作チームの所感

ビジョンブックのコンセプトを考えるという一つのテーマでありながら、個人での捉え方や、各チームごとの発表でも色々な意見が出て有意義な時間でした。他のどの大学でもなく、同志社だから言えることは何か？を研ぎ澄ませていった先に、コンセプトにたどり着くのだと思いました。

ビジョンブックのコンテンツを考える

[ワークショップ° | 2]

ビジョンブックに必要な 構成要素を洗い出す

2コマ目のワークショップでは、設定したコンセプトを受けて、ビジョンブックの構成要素のアイデア出しに取り組みました。1コマ目と同じく、個人ワークを行ったのち、グループワークでブレインストーミングが行われました。他チームのコンセプト発表を聞いてコンテンツ案を再考したり、より良いアイデアを出すために議論を重ねていきました。最終発表では、「同志社精神を紐解く」コンテンツや、「活躍する卒業生の紹介」など人材にスポットを当てた企画、「同志社写真館」と題してビジュアルに訴えるアイデアや、参加型の「エピソード募集」など、様々な視点から構成要素が発表されました。また、ビジョンブックに興味を持たせるための表現手法の工夫も必要といった意見も出されました。

＞ 制作チームの所感

ビジョンブックを構成するセオリーはあれど、そこに同志社らしさをどう打ち出すのかがポイントのワークショップだったと感じます。ただ構成要素を考えるだけでなく、どのように伝えと読んでもらえるビジョンブックになるのか?といった見地から、表現手法にまで議論が及んでいたことが印象的でした。

